



JAPAN HERITAGE

日本遺産認定

「ジャパンレッド」発祥の地

「弁柄と銅の町・備中吹屋」

市が文化庁に申請していた「ジャパンレッド」発祥の地「弁柄と銅の町・備中吹屋」のストーリーが6月19日に「日本遺産」に認定されました。
 今後、関連する歴史文化遺産を国内外へ広く発信することで、観光施策の推進により交流人口を拡大し、地域経済の活性化を目指していきます。

日本遺産とは

日本遺産とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語る「ストーリー」を文化庁が認定するもので、平成27年(2015)に創設されました。

令和2年度は69件の申請があり、そのうち21件が認定されました。平成27年度から令和2年度までの間に全国で104件の日本遺産が認定されています。

ストーリーには、単一の市町村で完結する「地域型」と、複数の市町村にまたがって展開する「シリアル型」の2つの種類があります。高梁市のストーリーは「地域型」で、県内では倉敷市に次いで2件目の認定になります。

日本遺産事業の方向性

- ① 日本遺産事業の方向性は次の3つに集約されます。
- ② 地域に点在する文化財の把握とストーリーによるパッケージ化
- ③ 地域全体としての一体的な整備・活用
- ④ 国内外への積極的かつ戦略的・効果的な発信

認定の概要

タイトル

「ジャパンレッド」発祥の地
 「弁柄と銅の町・備中吹屋」

申請者 高梁市

構成文化財 22件

ストーリーの概要

標高約500mの高原上に忽然と出現する「赤い町並み」。かつて国内屈指の弁柄と銅生産で繁栄した鉾山の町・吹屋である。

吹屋で生産された赤色顔料の弁柄は全国に流通し、社寺などの建築や九谷焼・伊万里焼や輪島塗など、日本を代表する工芸品を鮮やかに彩り、日本のイメージカラーである「ジャパンレッド」を創出した。富を得た商人たちは赤い瓦と弁柄で彩色された格子で家々を飾り、今も残る町並みは、独特の景観を醸し出し、訪れる多くの人々を魅了している。

また、周辺には弁柄工場跡や銅山跡などが残り、「ジャパンレッド」を創出した往時の繁栄を偲ばせている。

日本遺産・歴まち推進室
 ☎(11)0257

ジャパンレッドを創出した吹屋弁柄



ペンガラ館



九谷焼

赤い町並みの景観と魅力



吹屋の町並み

吹屋弁柄と銅山の隆盛を体感できる空間



ペンガラ灯り



旧広兼家住宅

国内屈指の銅の生産地



笹畝坑道



6月19日に行われた認定セレモニーの様子